

救急センター（救急外来）

中原千尋救急科部長が下関に異動し、今年の3月で早3年が経過し、救急外来数や救急車の受入数も徐々に増えてきております。

今年は医師の異動はなく、昨年に続き中原・岡山体制で落ち着いた4月を迎えることができました。例年新任のDr.が慣れるのに時間がかかるのですが、今年はそのような手間もいらず、スムーズな新年度を迎えることができ、スタートから全開で治療できる体制になっています。

看護部門では、4月から山口師長となり新たなスタートを切りました。10月に化学療法室が新棟への移動となるために、これまで兼任してきた看護師はさらに慌ただしい日々を過ごしています。受付も救急当番日には準夜帯に増員があるなど徐々にではありますが体制も整ってきつつあります。

今年は春先に中東呼吸器症候群（MARS）の問題があり、当院は感染に関し基幹病院であるために救急外来はその先方として対応が迫られ、戦々恐々とした日々を過ごしております。インフルエンザと違いわからないことが多く、しかも下関は韓国に近かったことから日本に上陸するなら当院の可能性が高いと今もって警戒態勢をもって対応している日々であります。

昨年はトリアージ問題で世間を騒がせてしまいましたが、その反面、問題となった待ち時間に対しての様々な対策について、再度考える時間を設けることができました。このことは救急外来として、また病院として対応を考えるいい機会になったと、前向きにとらえております。Dr.の診察技術も含め、改善を迫られる部分が多くまだまだ未熟な点が多いのですが、待ち時間をより減らすような診療体制を確立してまいりたいと思います。

当院は救急外来に必ず1名を常勤させ、専用で対応しています。受け入れの際にどの科で対応するかで時間を喰う心配はなく、重症であればあるほど対応が早いと考えておりますので、電話の一報をいただければ対応いたします。どうぞ、お気軽に紹介してください。